

令和7年度 家串小学校 後期自己評価書

重点目標 : 郡内共通目標 : グランドデザインとの関係 赤字: 部統一覧事項関連 5ポイント以上改善 5ポイント以上低下

重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)				
					4	3	2	1	分からない
1 確かな学力の定着と向上に努める	確かな学力の定着向上に向けて計画的・組織的に学習指導の工夫を行っているか。 目標値: 教職員・保護者全ての肯定率が85%以上	A	◇前期に比べ「4」の評価は上がっている。しかし、保護者は「2」の評価が増えた。教職員によって指導の工夫に差があり、組織的な工夫という点において課題がある。 ◆今年度は年間5回の校内授業研究を行った。教職員が互いの指導技術を交流し、一人一人の授業力を向上させることができた。今後も継続していく。	教職員(Q1①) 33.3 66.7 0.0 0.0 R7前期 12.5 87.5 0.0 0.0 保護者(Q1) 36.4 54.5 9.1 0.0 R7前期 33.3 66.7 0.0 0.0 教職員の肯定評価: 100% 保護者の肯定評価: 90.9%					
	小規模校のよさを生かした個に応じたきめ細かい指導の充実(読書、児童に基礎・基本を身に付けさせることができているか)。 目標値: 単元末テスト(国語・算数)の全学年の正答率(平均)が90%以上を達成。教職員・児童の肯定率が85%以上	A	◇教職員・児童の肯定率は100%である。単元末テストの結果では、国語科・算数科ともに目標値を上回っている。3・4・6年生が実施した県チヤレンジテストの結果は、国語科は全学年が愛南町の正答率平均値を上回っている。しかし、算数科については、正答率が下回っている学年がある。 ◆今年度は書く活動に重点を置いて取り組んだ。その結果、国語科の全般的な力が向上したのではないかと考える。今後は、算数科の基礎的、基本的な内容を確実に習得できるように繰り返し取り組む必要がある。そのためには、根気強く課題に取り組もうとする意識の向上が大切である。その上で、放課後等の時間を活用して、個別に補充学習を行うことができるように体制を整える。	教職員(Q2①) 55.6 44.4 0.0 0.0 R7前期 50.0 50.0 0.0 0.0 児童(Q3) 52.4 47.6 0.0 0.0 R7前期 42.9 52.4 4.7 0.0 国語科80.9% 算数科82.4%(R7年度 2学期) 国語科82.0% 算数科85.2%(R7年度 1学期)					
	低学年30分、中学年45分、高学年60分以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値: 教職員・児童・保護者全ての肯定率が85%以上	B-C	◇児童の評価はよくなっているが、教職員と保護者の評価が下がっている。特に保護者の下がり方が大きい。家庭での学習の様子に満足していない保護者が多いことが表れてあろう。 ◆家庭学習の内容が、児童の実態に合ったものであるか検証し、学級活動等の時間を使って、家庭学習のあり方を指導する必要がある。実際に該当学年の家庭学習時間を計って、提供されている宿題をやってみると、その宿題が量的に適切かどうか分かる。しかし、児童の実態が同じではないので、同じ宿題を取組時間が違うのは当たり前で、その違いの時間をどのように使うか、早く終わったら終わりではなく、その時間を自分の学力向上のためにどのように使えばよいのかを考えさせ、自主学習への意欲を持つように指導する。	教職員(Q1③) 11.1 66.7 22.2 0.0 R7前期 0.0 100.0 0.0 0.0 児童(Q14) 47.6 42.9 9.5 0.0 R7前期 38.1 33.3 23.8 4.8 ※児童(Q11読書) 38.1 38.1 19.0 4.8 保護者(Q2) 0.0 63.6 36.4 0.0 R7前期 50.0 50.0 0.0 0.0 ※保護者(Q8読書) 18.2 27.3 54.5 0.0 教職員の肯定評価: 77.8% 児童の肯定評価: 90.5% 保護者の肯定評価: 63.6%					
	コンピュータ等を使った学習は楽しいか。 目標値: 教職員・児童全ての肯定率が85%以上	A	◇教職員・児童共に肯定率は85%を上回っており、「4」の評価が前期より増えている。日々の授業においてICTを積極的に活用し、楽しく分かる授業に努めていることが、よい結果につながった。環境教育研究会(中間発表会)では、グループごとに体験学習の学びをまとめ、分かりやすく来客に伝えることができた。朝の会では、ヒスタの新聞記事の紹介を継続している。今後も、児童が主体的に調べ学習や家庭での自主学習に活用できるよう、指導を継続する。 ◆AIを活用したプレゼンテーション作成やアプリを使った動画作成等、教職員が自主的に研修している。相互研修や情報交換の場を工夫し、教職員全体の技能向上に努め、ICTの効果的な活用を目指す。	教職員(Q1②) 44.4 55.6 0.0 0.0 R7前期 37.5 50.0 12.5 0.0 児童(Q5) 85.7 9.5 4.8 0.0 R7前期 66.7 33.3 0.0 0.0 ※児童(Q4道2回) 47.6 47.6 4.8 0.0 ※児童(Q6分かん) 66.7 28.6 0.0 4.7 教職員の肯定評価: 100% 児童の肯定評価: 95.2%					
2 生徒指導の徹底と健全育成に努める	教育相談やアンケートなどを実施し、児童一人一人の悩みを把握し、いじめを解消する手立てを講じているか。 目標値: 教職員・児童全ての肯定率が85%以上	A-B	◇月1回の教育相談を中心に、児童の様子を把握し、状況に合わせた対応やきめ細かな指導、教職員間の情報共有に努めた。児童の肯定率が前期より少し下がっているため、「1」や「2」と回答した児童に対する継続的な支援を続けていく。 ◆休み時間等の教職員の目が届かない時に心配な事例が起こるため、教職員間で連携し、小さな問題を見逃さず「1」に指導する。特にいじめにつながる事例については、初期対応を丁寧に行い、心に響く指導を行う。	教職員(Q2②) 44.4 55.6 0.0 0.0 R7前期 50.0 50.0 0.0 0.0 児童(Q2) 57.2 23.8 9.5 9.5 R7前期 47.6 38.1 4.8 9.5 教職員の肯定評価: 100% 児童の肯定評価: 81%					
	全ての児童が、楽しいと言える学校づくりに努めているか。 目標値: 教職員・児童・保護者全ての肯定率が85%以上	A	◇教職員・児童共に、前期より「4」の回答率が高くなっている。2学期、多くの行事等でやり遂げた充実感が結果に反映されていると考える。一方、保護者の「4」の回答率は減っている。 ◆行事等の活動を通して、児童の自己肯定感・自己有用感を高める。負担感やプレッシャーを感じる児童には、スモールステップによる称揚や個に応じた支援を行う。	教職員(Q2③) 55.6 44.4 0.0 0.0 R7前期 25.0 75.0 0.0 0.0 児童(Q1) 76.2 19.0 0.0 4.8 R7前期 66.7 23.8 4.8 4.7 保護者(Q6) 36.4 54.5 9.1 0.0 R7前期 75.0 25.0 0.0 0.0 教職員の肯定評価: 100% 児童の肯定評価: 95.2% 保護者の肯定評価: 90.9%					
	児童は進んで挨拶ができているか。 目標値: 教職員・児童・保護者・地域住民全ての肯定率が85%以上	B	◇児童と教職員は前期より「4」の回答率が増えているが、保護者と地域は「3」が多く、評価が分かれている。また、児童の自己評価は高いが、他者からの評価は高くない。決まった場所での挨拶はできるが、それ以外の場所や人への挨拶については不十分である。 ◆1月の生活目標が挨拶に関する内容であり、児童が話し合っって主体的に挨拶運動に取り組んでいる。今後も児童の意識を高め、学校外での挨拶にもつなげていきたい。	教職員(Q5③) 22.2 55.6 22.2 0.0 R7前期 0.0 62.5 37.5 0.0 児童(Q7) 66.7 28.6 4.7 0.0 R7前期 33.3 57.1 4.8 4.8 保護者(Q3) 0.0 90.9 9.1 0.0 R7前期 16.7 66.7 16.6 0.0 地域住民(Q1) 10.5 68.4 21.1 0.0 R7前期 11.8 52.9 23.5 0.0 教職員の肯定評価: 77.8% 児童の肯定評価: 95.3% 保護者の肯定評価: 90.9% 地域住民の肯定評価: 78.9%					
3 教職員の資質・能力と学校組織の活性化	職場全体で意識改革を図り、業務の見直しなどによる働き方改革を進めているか。 目標値: 教職員の肯定率が85%以上	A	◇前期は教職員の「4」の回答率が0だったが、後期は増えている。行事や体験学習等の計画や準備を早めに進め、連携・協働して運営に当たったためであると考え。今後も、相談しやすく風通しのよい職場づくりに努め、超過勤務を減らしていく。 ◆来年度の学校行事の計画を早めに立て、保護者や地域の方の理解を得ながら、教育的効果をもたつ業務負担の軽減を図る。	教職員(Q4②) 33.3 66.7 0.0 0.0 R7前期 0.0 100.0 0.0 0.0 教職員の肯定評価: 100%					
	校内及び校外の研修に主体的に取り組み、自己研鑽に努めたか。 目標値: 教職員の肯定率が85%以上	A	◇「4」の回答率が上がり、肯定率は100%である。1学期の終わりから、夏休み、2学期と授業研究や出前講座・外部講師を招いての授業等を実施し、校内研修を充実させることができたためであると考え。また、自己研修を深めるため、課題別研修やその他の研修にも積極的に取り組んだ。 ◆他の教員の授業を見に行ったり、研修会で情報交換を行ったりして、主体的な授業研究の機会を増やす。 ◆校外の研修で学んだことを全体へフィードバックすることで、教育活動への取組の質的向上を図る。	教職員(Q4①) 55.6 44.4 0.0 0.0 R7前期 37.5 62.5 0.0 0.0 教職員の肯定評価: 100%					

重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)					人数
					4	3	2	1	分からない	
4 豊かな心を育てる教育の推進	友達や教職員、地域の人々との交流を通して、思いやりの心や、感謝する心、優しい態度が育っているか。 目標値:教職員・児童・保護者・地域住民全ての肯定率が85%以上	B→A	◇教職員、児童の「4」の回答率が増えている。校外学習や総合的な学習の時間等の交流活動を通して、地域の方々に感謝の気持ちを伝える機会が多かったため、評価が上がったと考える。保護者や地域の方は、「4」の評価が減り、「3」の評価が増えている。家庭内や地域で、直接感謝の気持ちを伝えたり、行動で示したりすることが少ないのではないかと考えられる。 ◆様々な活動を通して、感謝の気持ちが伝えられるように子供たちに呼び掛けたり、通信等で発信したりする機会を増やす。また、家庭内での日頃の会話において、不適切な言葉があることを耳にする。道徳や学活等の授業や学校生活全般において、言葉遣いの指導も行っていく。	教職員(Q3①) R7前期 児童(Q9) R7前期 児童(Q15手紙) 保護者(Q9) R7前期 保護者(Q10) R7前期 保護者(Q4手紙) 地域住民(Q2) R7前期 地域住民(Q3) R7前期 地域住民(Q8) R7前期 教職員の肯定評価: 100% 児童の肯定評価: 95.2% 保護者の肯定評価: 90.9% 地域住民の肯定評価: 93.3%, 92.9%, 86.7%	44.4 25.0 61.9 47.6 38.1 27.3 50.0 18.2 41.7 9.1 13.3 29.4 21.4 11.8 46.7 23.5 100% 95.2% 90.9% 93.3%, 92.9%, 86.7%	55.6 75.0 33.3 33.3 33.3 63.6 41.7 72.7 41.7 36.4 80.0 35.3 71.5 52.9 40.0 58.9 95.2% 95.2% 90.9% 93.3%	0.0 0.0 4.8 19.0 28.6 9.1 8.3 9.1 16.6 54.5 6.7 11.8 7.1 11.8 13.3 0.0 100% 95.2% 90.9% 92.9%, 86.7%	0.0 0.0		

8 その他
学校運営協議会
委員の所見

<1 確かな学力の定着・向上>
 ◇学校ではきめ細かい指導をし、熱心に取り組んでいると思う。
 ◇9月に「詩を作る」授業に参加した。児童は詩や俳句など表現する楽しさを感じてくれたのではないかな。
 ◇個に応じた指導やコンピュータを使った学習など、学校はそれぞれの先生方が工夫して取り組んでいると思う。家庭学習については、個人差や家庭での取り組み方に差があり、難しい。家庭の協力が重要になってくる。
 ◆全体的に前期より保護者の評価が下がっているのが気になった。子供たちは「きちんとやっている」と思っても、保護者から見ると「やっていない。できていない」と感じるのだと思う。無理に勉強させても、雑々だと頭に入らないので、個々に応じた学習が家ででもできればと思う。
 ◆自主的な学習ができてくると、向上してくるのではないかな。自主学習ノートや自主学習メニュー等も活用してみてもどうか。
 ◆家庭での学習時間については、保護者をはじめとした家族の理解や環境づくりも必要で、単に宿題の量だけの問題でもないと思う。
 ◆帰ってからすぐに宿題をするくせをつける。
 ◆学年ごととの家庭学習時間の習慣について、もし時間内に早く終わった子は、以前していたチャレ学(頑張ったらポイントが付くなど)や読書をするようにしたらどうかと思った。

<2 生徒指導の徹底と健全育成>
 ◇月1回の教育相談はとてもよく、ありがたいと思う。先生と一対一で話す時間を作ってもらえていれば、普段言いたくても言えないことを話しやすい。休み時間等の先生の目の届かない時に心配な事があるとのことだが、常に見られるわけではないし、小さな子供でもないで、子供たち同士で解決できればよいかなと思う。
 ◇学校行事も多く、一人一人の成長につながっていると思う。
 ◇挨拶は良くなっていると感じる。仲良く元気に学校生活を送ることができていると思う。
 ◇休み時間に起こるちょっとした心配のタネが、後からいざこざになってしまうのだなと感じた。
 ◆保護者の回答については、家で児童が「学校が楽しい」と言っていないのかもしれない。家庭での会話はどうか。課題から目標を立てることも必要だが、「できた」ことを積み重ねていけたらよいと思う。
 ◆挨拶は頑張っていると思うが、友達同士や友達と保護者へもできるようにしてほしい。
 ◆家族団らんの時に、今日あった事など、子供たちが今何を思っている(考えている)か話をする。

<3 教職員の資質向上・組織の活性化>
 ◇先生方の連携はもちろん、保護者・地域と連携は今後も必要だと思う。今までの経験や知識を活かして、よりよい活動を期待している。
 ◇環境教育指定校として、地域の皆さんに協力していただきながら、「楽しくためになる」中間発表会を開くことができた。
 ◇環境教育等、協力して取り組まれている。
 ◇教職員の働き方改革は、風通しのよい職場づくりにもつながると思う。
 ◆学校行事などを地域の予定に合わせると、土日になってしまうことは申し訳ないが、平日の働き方(早く帰るなど)で先生方自身も健康に過ごしてほしい。
 ◆行事予定を早めにお知らせいただいて、保護者もいろいろ使ってください。

<4 豊かな心を育てる教育>
 ◇以前よりも地域の方々の交流も増え、参加も増えているように感じる。家族や先生以外の交流はとても良いので、これからも続けてほしい。
 ◇学年や性別を越えた関係性は、日々の生活の中で培われていると感じる。
 ◇地域を想う心の育成の評価が高くなっており、地域行事に伴い、地域との交流や地域を知ることにつながっている。とても良いことだと思う。
 ◇地域の行事もまじめに取り組んで、感謝している。
 ◇環境教育や海学習に関連して、地域の方や講師の方と交流し、様々な体験ができたことがよかったと思う。
 ◇言葉遣いの指導をしていただけたというのは助かる。

<5 健康教育>
 ◇1学期より2学期の方が全員出席の日が上回っているようで嬉しい。手洗い・うがい・消毒・マスクの着用や早寝・早起き・朝ごはんは、日頃からできることを続けるのが大事なので、学校と家庭で呼び掛けをするのがよい。
 ◇学校保健委員会の栄養士の原田先生のお話がすばらしかった。もっと多くの保護者にも聞いていただきたかった。
 ◇全員出席の日が増えていることは、子供たちの健康管理に努めている証拠であると思う。早寝・早起き・朝ごはんの推進を継続し、規則正しい生活習慣を確率することで、病気の予防や学校生活に集中して取り組めるようになると思う。
 ◇急に家車・平巻の子が放課後集まって公園で遊ぶブームがきていて、いいことだと思う。
 ◆使えない道具が多いのが残念。外でいろいろな道具でも遊べるといいのでは…。
 ◆朝ごはんをきちんと食べる。

<6 安全・安心な学校づくり>
 ◇学校でのポリ袋炊飯は、とても良かったと思う。実際にやってみることで、災害時に役立てられる。
 ◇防災学習の充実により、地域での避難訓練では、子供たちが主体的に避難を呼び掛けており、今後も地域住民と共に、子供たちの発信力で地域防災力の向上に取り組めたら嬉しいと思う。
 ◇運動場がきちんと整備されていていいと思う。
 ◆避難道も定期的に清掃ができてよい。
 ◆各自治会が年間行事に学校との避難訓練を入れて、校区全体で活動を盛り上げていただきたい。
 ◆地域・学校・駐在所との連携をしていく。

<7 開かれた学校づくり>
 ◇学校だよりやホームページで学校の様子を知ることができて、とても良い。
 ◇ホームページの更新がよくされている。
 ◇学校についてよく情報発信されている。
 ◇児童の声で行事への参加を呼び掛ける放送が効果的だったように思う。
 ◆地域との交流においては、学校行事の開催日(曜日)を検討し、地域住民参加型の活動になるとよりよいと思う。
 ◆地域活動に積極的に参加する。